

題材のねらい

過去の災害に学び、減災・防災に取り組もうとする意欲を育成する資料として活用する。



- ・自分たちの住んでいる町にも、地名や記念碑など、防災に関する言い伝えなどがないか調べてみる。
- ・「震災モニュメントマップ」(P.62-63) も合わせて活用できる。

読んでみよう

おおつなみきねんひ
大津浪記念碑

「高さ住居は児孫に和楽 想へ惨禍の大津浪
此処より下に家を建てるな」



「ここより下に家を建てるな」と記す「大津浪記念碑」は、岩手県宮古市姉吉地区にあります。3000名近い犠牲者を出した1933（昭和8）年に三陸地方をおそった大津波の後、そのとう達点よりさらに高い場所に近りんの住民が建てたといわれています。2011（平成23）年の東北地方太平洋沖地震による津波でさえ、この碑の手前で止まり、姉吉地区では被害をまぬがれた方も多かったそうです。

何度も津波におそわれている東北地方では、「大津浪記念碑」のような碑のほか、近年最大の津波であった1960（昭和35）年のチリ地震津波のとう達点を記した表示板が各地にありました。表示板は、内陸深くまで津波がしん入してくることを、津波を経験したことのない住民にも伝えるためのものでした。しかし、東北地方太平洋沖地震による津波は、従来の想定を大きくこえるものであり、多くの表示板が津波にのまれました。

姉吉地区の先ぞは、当時経験したこともないような大津波のとう達点よりさらに高い地点に、「ここより下に家を建てるな」というきびしい内よりの碑を残しました。想定や経験をこえる津波へのそなえを子孫に語りつごうと考えたのは、実さいに想ぞうをぜつする体験をした人々だったからこそかもしれません。

長い年月をこえて先ぞの教えにけんきよに学ぶこと、想定や経験をこえる事態を想定すること。いずれも口というほどかん単ではありませんが、しょう菜のさい害にそなえるために必要なことではないでしょうか。

13

